

地域づくり Web 交流会 開催報告

会議概要

- 日 時：令和8年1月30日（金） 10:15~11:45
- 場 所：オンライン
- 主 催：北海道開発局
- 出席者：49名

主催者挨拶：駒井 象次郎（北海道開発局開発監理部開発計画課開発専門官）

進行・ファシリテーター：松本 美穂（はまなす財団）

パネリスト：吉田 和博 氏（士別市 道の駅 羊のまち 侍・しべつ）
入佐 小春 氏（当別町 北欧の風 道の駅とうべつ）
岩淵 絢加 氏（深川市 道の駅 ライスランドふかがわ）
小泉 大地 氏（羽幌町 道の駅 ほっと♡はぼろ）
菅原 政成 氏（幕別町 道の駅 忠類）
馬場 大輔 氏（新潟県田上町 やさしい道の駅たがみ）

1. 主催者挨拶（北海道開発局開発監理部開発計画課開発専門官 駒井 象次郎）

北海道開発局では、第9期北海道総合開発計画に基づき「生産空間」の維持・発展を推進している。また、道の駅は地域づくりの重要拠点（第3ステージ）と位置づけられており、本交流会では各駅の先進的な取組共有したいと考えている。

2. 北海道「道の駅」PR フェア開催結果、地方創生に資する「道の駅」の取組紹介

各パネリストより、自駅の特徴と令和7年11月に開催された「イオン札幌発寒店 PR フェア」の結果報告。

○士別市（道の駅 羊のまち 侍・しべつ）

- ・特色：中心市街地に位置する「まちなか交流プラザ」であり、取り扱う商品の約8割が市内事業者のもの。
- ・フェア報告：菓子類を中心に販売したところ、札幌市内からのふるさと納税の申し込みが例年の1.5倍に増えるなど、波及効果を実感。

○当別町（北欧の風 道の駅とうべつ）

- ・特色：スウェーデンの姉妹都市にちなんだ北欧デザインが特徴であり、地域商社「株式会社 tobe」が地元資源の商品開発を担っている。
- ・フェア報告：当別町産の黒豆や、新じゃがを使ったポテトチップスが人気。

○深川市（道の駅 ライスランドふかがわ）

- ・特色：お米をテーマに年間約100万人を集客しており、市内業者や北空知圏内の産品に限定した販売ルールを徹底。
- ・フェア報告：2日間で20万円以上の売上を記録し、「ねばり長芋」が完売するなどの大きな反響を実感。

○羽幌町（道の駅 ほっと♡はぼろ）

- ・ 特色：甘エビの水揚げが全国トップクラスの地域であり、宿泊施設と温泉施設を併設。人手不足の地元事業者に代わって、道の駅が委託販売を担っている。
 - ・ フェア報告：町の PR と、他駅との交流を目的に参加した。
- 幕別町（道の駅 忠類）
- ・ 特色：ナウマンゾウの化石が発掘された地であり、地元の小・中学校と連携して「ナウマンゾウぬいぐるみ」を制作。また、「防災道の駅」としての機能強化も進めている。
 - ・ フェア報告：「ナウマンまんじゅう」が一番人気。
- 新潟県田上町（やさしい道の駅たがみ）
- ・ 特色：コンビニほどの規模でありながら、「地域の再価値化」を実践。放置竹林を活用した祭りの開催や、有名ラーメン店とのコラボレーション等の取組を進めており、これらがグッドデザイン賞を受賞している。

3. パネルディスカッションー地方創生・地域活性化に資する「道の駅」の可能性ー

道の駅同士の交流や、地域住民との関わりについて議論。

<道の駅同士の交流>

- 土別市（道の駅 羊のまち 侍・しべつ）
- ・ 完全民営であるため、管理費の確保が大きな課題である。他駅の取組や課題解決の方法を学ぶ場を強く求めており、直接集まって意見交換できる機会を定期的に開催してほしいと考えている。
- 当別町（北欧の風 道の駅とうべつ）
- ・ 広大な道内において、他地域との交流はとても貴重である。安平町との商品相互販売など、これまでのコラボ実績を踏まえると、道の駅同士の連携は非常に有益である。
- 深川市（道の駅 ライスランドふかがわ）
- ・ 経営上の具体的な悩みを共有できる場が必要であると感じている。道の駅に特化したイベントを増やしていきたいと考えており、宮崎県都城市の道の駅とも相互出展などを通じて連携している。
 - ・ 宮崎県都城市と深川市は、金融機関の繋がりをきっかけに 10 年前から交流が始まっている。昨年 10 月には協定を締結し、組織的な連携体制を構築している。
- 羽幌町（道の駅 ほっと♡はぼろ）
- ・ 留萌管内では、3 年前の会議を最後に交流が途絶えている現状である。管内単位や広域エリアでの意見交換や情報共有がより活性化していくことを期待している。
- 幕別町（道の駅 忠類）
- ・ 十勝管内ではスタンプラリーを共同開催している。自治体と民間が持ち回りで担当し、年 1～2 回の会議を行う連携体制が継続している。
- 新潟県田上町（やさしい道の駅たがみ）
- ・ 民間主体で「駅長会」を組織している。自駅の素材と、他駅が持つ加工技術を組み合わせた共同商品開発など、実利的な連携を進めている。

<具体的な連携・コラボ事例>

- 当別町（北欧の風 道の駅とうべつ）
- ・ 安平町の道の駅とは、1 か月間商品を交換し、ソフトクリームのフレーバーを入れ替えて販売するなどのコラボを行っている。

- ・また、イオンの催事を通じて、士別市のサフォークや幕別町（忠類）のナウマンゾウのような、地域ごとに持つ独自の「強み」をあらためて認識し、自駅の商品開発に反映させたいと感じている。
- 幕別町（道の駅 忠類）
 - ・占冠の道の駅とは情報交換を行っており、イベント後には「ゆり根大福」などのサンプルを送付している。これらを今後の商品開発の参考にしてもらうなど、物的交流を実施している。
- 深川市（道の駅 ライスランドふかがわ）
 - ・前述の都城市とは、協定に基づき、お互いの特産品（ポテトチップス等）の販売やイベント出展などの取組を行っている。
- 新潟県田上町（やさしい道の駅たがみ）
 - ・民間主体の「駅長会」を中心に、他駅が持つ加工施設を活用して自町の素材を商品化する取組を日常的に行っている。おせんべいや漬物など、自駅では加工が難しい商品を共同で開発できている。

<住民・若者（子ども達）の参加>

- 新潟県田上町（やさしい道の駅たがみ）
 - ・小学生が地元の宝物を描いた絵を「ガチャガチャ」にして販売したところ、1年経っても売れ続けている。目的は「地域が繋がること」であり、子どもたちが自分の町に誇り（シビックプライド）を持つ仕掛けづくりが重要である。
- 幕別町（道の駅 忠類）
 - ・小・中学校と連携して制作した「ナウマンゾウぬいぐるみ」に、子どもたちが考えた解説本を付けるなどの取組を行っている。
- 北海道開発局
 - ・厚沢部町では中学生のアイデアを企画に反映させる取組を行っている。企画段階から若者を巻き込み、大人がその意見をしっかり受け止める姿勢は、地域の将来にとって大きな財産になると考えている。

<地元住民の日常利用促進>

- 士別市（道の駅 羊のまち 侍・しべつ）
 - ・館内の空きスペースを、市内のハンドメイド作家（主婦層など）にチャレンジショップとして開放している。これにより、地元の人が日常的に来館しやすい環境を整えている。

4. 交流会参加者を交えた意見交換・情報交換

- 商品カテゴリー拡大への期待
 - ・イオンなど外部催事において現在取扱いが難しい冷蔵・冷凍カテゴリーの販売が可能になれば、地元特産の肉類や海産物といった看板商品を、より広い層に直接アピールできるとの強い要望が寄せられた。
 - ・特に、地域を代表する名物は冷蔵・冷凍品であることが多く、販売枠が広がれば「その土地ならではの魅力」をしっかりと打ち出せるという期待が大きい。

5. 閉会

○駒井象次郎
(北海道開発局開発監理部開発計画課開発専門官)



○松本美穂 (はまなす財団)



○吉田和博 氏 (士別市 道の駅 羊のまち 侍・しべつ)



○入佐小春 氏 (当別町 北欧の風 道の駅とうべつ)



○岩渕絢加 氏（深川市 道の駅 ライスランドふかがわ）



○小泉大地 氏（羽幌町 道の駅 ほっと♡はぼろ）



○菅原政成 氏（幕別町 道の駅 忠類）



○馬場 大輔 氏（新潟県田上町 やさしい道の駅たがみ）

